

常照

佛教大学附属図書館報

2024

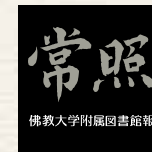
NO. 71

佛教専門學校
附屬圖書館
成徳常照館之記

本圖書館ハ京都市東山区下河原町貳拾二番地
上村米子上村里子上村喜代子三氏カ故上村常
治郎氏ノ遺志ニ因リテ昭和九年一月二十五日
浄土宗教教育資團ニ寄附セラレタル浄財ヲ以テ
建設セルモノトス抑モ上村家ハ世々浄土宗ヲ
信スルコト篤ク殊ニ先々師大本山清浄華院第
七十世獅子谷佛定大僧正及ヒ先師大本山百萬
遍知恩寺第六十八世土川善哉大僧正ノ勸化ヲ
蒙ルコト頗ル大ナルモノアリ故常治郎氏ハ資
性温厚寡黙謹嚴ニシテ深ク先師ニ歸依シ生前
膠漆毛膏ナラズ而シテ先師ノ一身ヲ宗門育英
ノ業ニ献ケ宗學ノ興隆ヲ以テテ畢生ノ念願ト



佛教大学附属図書館



2024 NO. 71

ジョン・ブラウン博士の思い出

附属図書館長・社会学部教授 藤井 透

1

日本中世寺院の目録とその役割 — 大須文庫のものを例として

仏教学部仏教学科准教授 三好 俊徳

2

図書館に寄せて

歴史学部歴史文化学科教授 堀 大介

6

0歳から、みて、きいて、ふれて、楽しむ絵本の世界 — 図書館所蔵の布絵本とマザリーズで繋ぐ親子の絆 —

教育学部幼児教育学科教授 柏 まり

10

佛教大学附属図書館で学ぶ近代仏教

社会学部現代社会学科教授 大谷 栄一

14

本のお医者さんがいる図書館

図書館修理担当 安木 志保

18

佛教大学附属図書館の事業活動報告（2023～2024年度前半期）

23

佛教大学附属図書館の沿革と「成徳常照館」の由来

25

はなはだ私事ではあるが、本年はかつて知遇を得たエディンバラ大学の歴史学者であったジョン・ブラウン博士（John Brown, 1937～2012）の13回忌の年に当たるので思い出を書いてみたい。ブラウン博士は単著『The British Welfare State, 1995, 1冊を残したが邦訳はされておらず、生涯を通して決して多産な研究者ではなかった。よって、日本ではあまり知られていない。しかし、わたしが長年、研究テーマとしてきた一世紀前の世紀転換期イギリス社会政策思想研究の世界では、博士はきわめて重要な研究を残された。「ロンドン調査」で有名なC.ブリスは、同調査の中で設定したB階級（主に臨時労働者）を全体の労働市場から取り除きレーバーコローに収容することで貧困問題を解決すべきだとする構想を持っていた。この事実を、50年以上も前の論文ではじめて明らかにしたのが博士だった（Charles Booth and Labour Colony, 1889-1905, *Economic History Review*, Aug. 1968）。そしてこの論文は、最新の当該テーマにかかわる文献のなかでも引用されている（L. Goldman, *Victorians & Numbers*, 2022, p. 269）。

わたしは博士の独創的な研究に惹かれて、博士の学位論文『Ideas Concerning Social Policy and their Influence on Legislation in Britain, 1902-1911』（Ph.D. London, 1964）の引用許可をいただくために、1987年に博士にエア・メールを送った。すぐに、それへの快諾と親切な返事をいただいた。1991年に、エディンバラに博士を訪ね、昼食をご一緒したのが最初で最後の出会いとなった。2005年度に本学から1年間の長期研修の機会を与えられたので、ふたたび博士を訪ねるべく渡英前に連絡を取り、スコットランドの研究者にも紹介していただく運びとなっていた。しかし、同年にロンドンから具体的な日程を決める相談をしたところ、奥様の体調がよくないという返事をいただき、博士を訪ねることを断念した。

ただ一回お会いした機会に、今、思い出しても冷や汗ものの大変、失礼な質問をした。「なぜ、学位論文をもとにして本を書かないのですか」とわたしが質問したのである。このような質問に対して博士は、「研究対象としている時期から先の時期まで研究することによって、当該時期の

真の重要性がわかります。よって、今は少し先の時期を研究しているのでもまだ本が出せません」という趣旨の大変、几帳面な回答だった。博士はきわめて温厚で気さくな人柄の研究者であった。博士の教え子のひとりに、ゴードン・ブラウン英国労働党元党首・首相がいたことも付言しておこう。研究者としても教育者としても尊敬できる博士だった。

ジョン・ブラウン博士の 思い出

附属図書館長・社会学部教授 藤井 透

日本中世寺院の目録とその役割

―大須文庫のものを例として―

仏教学部仏教学科准教授 三好 俊徳

図書館に「目録」と名のつく書物はたくさんある。仮に「佛教大蔵書検索 (OPAC)」で「目録」と検索をかけると、二万七千点以上がヒットする。膨大な量の目録が出版されていて、図書館も多く所蔵していることがわかる。

そもそも目録とはなにか。『日本国語大辞典』第二版を引くと、一つ目の意味として「書物や文書などの題目・項目などを集めて記したもの」とある。それ以外にも、物のある場所を明らかにするために作られたり、物を授受する際に作成されたりするものがある、とされる。目録と言っても様々な種類があるということであるが、日本中世の仏教文学や寺院蔵書の研究をしている私が利用することが多いのは、書物や文書の目録である。

そのような目録は、いつ頃から作られているのであろうか。中国では早くから目録学が成立し、經典の目録である経録も作られている。日本でも、その経録が伝来しているだけでなく、『弘法大師請来目録』のように入唐僧が伝来した書物の目録が編まれたり、平安時代前期に藤原佐世が勅命により『日本国見在書目録』を編纂したりしている。そして、中世の寺院においても目録を作成し、それを書写して各種揃えていた。それらの果たした役割はなにか。その問題に全面的に答えることはできないが、名古屋市にある大須観音宝生院の蔵書である大須文庫のものを例に少しく考えたい。

大須観音は真福寺という寺名をもつ真言宗寺院である。鎌倉時代末期に尾張国中島郡（現在の岐阜県羽島市）に創建された、地域を代表する学問寺院であった。学問をするためには、今も昔も書物は必要不可欠である。真福寺も真言密教聖教（仏教関連の書籍）を中心として、幅広い仏教書、さらには漢籍や神道書なども所蔵していた。現在も、国宝に指定されている『古事記』など一万五千点を超える聖教や典籍が所蔵されている。しかし、いまだその全体像は明らかではないため、現在、名古屋大学を中心としたグループにより調査研究が進められており、私も継続して参加している。その調査

の目的は、まさに全点の書誌調査を踏まえた目録を作成することにある。そのなかで得られた知見をもとに論述する。

真福寺の歴史と目録

真福寺の蔵書形成の歴史と目録との関係は切っても切り離せない。真福寺を創建した能信は真言密教小野流の法流を三人の師から伝授されている。その法流は、それぞれ慈恩寺流・安養寺流・武蔵流とよばれ、真福寺では“大須三流”と総称している。注目すべきは、法流の伝受に際して、それぞれの法流の師が所持していた大量の聖教を、能信とその同法や門弟たちが書写していることである。法流の伝受と聖教書写が連動しているということであるが、同じことは二世信瑜への代替わりの際にも認められる。能信が学んだ“大須三流”の法流と聖教は、能信の側近であった有恵という僧を介して、真福寺二世の信瑜に伝えられる。その際に、有恵によって『聖教目録^{真福寺}』と題した目録が作成された。この目録は、真福寺の後継者に伝えられた聖教のリストと考えられる。

信瑜は真福寺二世となった後、当代随一の学問水準を誇る東大寺東南院の聖珍法親王に仕え信任を得て、聖珍から密教法流を承けた。それと同時に東南院が有する貴重な聖教典籍を多く書写し大須の地に伝えている。さらに、真福寺三世の任瑜は貴種であったことから、真福寺への入寺に際して、東大寺の貴重書の写本あるいは原本がもたらされることになった。このようにして集められた蔵書が、学問所としての真福寺の活動の基盤となったのである。

室町時代に入っても蔵書を充実させていくが、それらを管理する必要性にも迫られ、目録が作成されている。その一方で、真福寺はたびたび水害に遭っている。真福寺の立地は、木曾川と長良川が交わる交通の要所であったが、それ故に水害の危険性も高い地域であった。室町時代後期に水害に遭った蔵書のリストである『大須聖教目録不足分』が作成されているが、それからは、被害の大きさをうか



『大須観音 今開かれる、奇跡の文庫』
(大須観音宝生院、2012年)

このように大須文庫の蔵書は、何事もなく現在まで遺ったのではない。蔵書が流出したこともあるし、水害や戦災によって消失の危機にさらされたこともある。しかし、その度に、目録の作成をとおして保存の基盤が整えられてきたのである。私たちの集書活動と嚴重な管理の証が、現在まで遺された複数の目録であると言えよう。

その後、昭和二十年の名古屋への空襲によって、本堂をはじめとする大須観音の大部分は焼失したが、大須文庫の蔵書は罹災を免れた。その理由は、目録作成作業によってその価値を改めて認識した黒板は、各所に協力を仰ぎながら新しい収蔵庫の建設を進め、昭和十二年に完成したその施設に、蔵書を収めていたからである。そこは、当時の最新技術を駆使した耐火設備を備え、湿度対策も十全に行われていた。この施設のおかげで、大須文庫の蔵書は現在まで遺されたのである。目録作成をきっかけに戦禍を免れたということができるだろう。

その後、昭和二十年の名古屋への空襲によって、本堂をはじめとする大須観音の大部分は焼失したが、大須文庫の蔵書は罹災を免れた。その理由は、目録作成作業によってその価値を改めて認識した黒板は、各所に協力を仰ぎながら新しい収蔵庫の建設を進め、昭和十二年に完成したその施設に、蔵書を収めていたからである。そこは、当時の最新技術を駆使した耐火設備を備え、湿度対策も十全に行われていた。この施設のおかげで、大須文庫の蔵書は現在まで遺されたのである。目録作成をきっかけに戦禍を免れたということができるだろう。

がある。最後にこの点を『大須文庫目録』を例にみていきたい。

『大須文庫目録』の作成は、昭和四年（一九一九）に開始された。

当時の住職であった大槻快尊が依頼をして、東京帝国大学の黒板勝美が大須文庫の調査に携わることで始まった。黒板は学生たちとともに、蔵書管理のために一点毎に番号を付与し、防虫のために柿渋を塗布した紙袋に収めた。そのうえで目録整備を行い、昭和十年に全点を網羅した目録が完成する。また、その目録をもとに検索カードを作成し、出納の利便化も図っている。

その後、昭和二十年の名古屋への空襲によって、本堂をはじめとする大須観音の大部分は焼失したが、大須文庫の蔵書は罹災を免れた。その理由は、目録作成作業によってその価値を改めて認識した黒板は、各所に協力を仰ぎながら新しい収蔵庫の建設を進め、昭和十二年に完成したその施設に、蔵書を収めていたからである。そこは、当時の最新技術を駆使した耐火設備を備え、湿度対策も十全に行われていた。この施設のおかげで、大須文庫の蔵書は現在まで遺されたのである。目録作成をきっかけに戦禍を免れたということができるだろう。

目録からみえる知の体系

この水害も原因の一つになったのであろう。慶長十年（一六〇五）には、徳川家康の命で真福寺は名古屋城下に移転した。これが現在の大須観音の建つ場所である。この時に、真福寺の蔵書も、同地に移されている。以降、尾張藩社奉行の管轄下に入り、新たに目録を作成し、蔵書の管理が行われている。近代に入ると、太平洋戦争中に罹災し本堂が焼失するなどの危機を迎えるが、戦後に本堂は再建し、蔵書も現在まで遺されている。

がい知ることができ。

言えよう。

このような性質を備えるものであるため、目録は誰もが手に取ることができるような「開かれた」書物ではなかったと考えられる。たとえば、密教法流の伝授に伴い、その法流の修学すべき書物の目録や師が所属する寺院の蔵書の目録が書写・伝受されるということがある。それは修学の結果として、ようやく目録の閲覧が認められたと考えることができる。

すなわち、修学の段階にあわせてどのような書物を読むべきかという情報は秘匿性が高く、目録はそのような情報を体系的に集成している書物でもあると言いうことができるだろう。

そのような他寺の蔵書や修学に関わる目録も大須文庫には所蔵されている。いくつか挙げると、永暦元年（一一六〇）写の源信の弟子である寛印が撰述した『阿弥陀仏経論並章疏目録』、文和五年（一三五六）写の真福寺初代能信が学んだ慈恩寺流と関わる大福田寺の目録である『真言書目録桑太夫福寺』、貞治三年（一三六四）写の南北朝時代の東大寺東南院およびその院主の蔵書目録である『御前聖教目録・東南院経蔵聖教目録』などである。

これらは、真福寺の蔵書形成に際しても参照された可能性はある。そして、集積された聖教典籍が、真福寺の蔵書目録によって管理されたのである。

目録編集と蔵書の管理

大須文庫に所蔵されている目録を、その役割に応じて二種類に分けたが、目録の作成が蔵書を未来に遺すことに決定的に関わること

蔵書目録は書籍のリストである。しかし、単なるリストとしてとらえるだけでは不十分であろう。そのなかには、書物の分類をとおした知の体系が示されている。また、書籍が集められ、蔵書が管理され、保存されてきた歴史が詰め込まれているのである。今回は一寺院の事例のみで論述をしてきたが、図書館に所蔵されているすべての目録に、作成された経緯があり、そこには今回示したような背景があるはずである。それに思いを馳せて頁を開いたとき、そのリストは新たな像を結ぶのではないだろうか。

主要参考文献

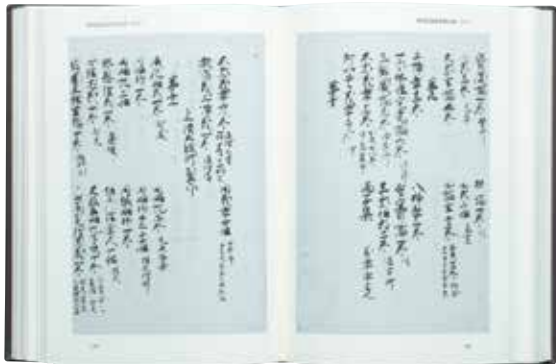
真福寺善本叢刊『真福寺古目録集』（臨川書店、一九九九年）
真福寺善本叢刊〈第二期〉『真福寺古目録集二』（臨川書店、二〇〇五年）
『大須観音 いま開かれる、奇跡の文庫』（大須観音宝生院、二〇二二年）
三好「真福寺に伝来する宗教テキストのアーカイヴ化」（『HERTEX』3号、二〇二〇年）



みよし としのり
三好 俊徳 仏教学部仏教学科准教授

1980年、福井県生まれ。名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程単位取得退学。博士（文学）。専門は、日本中世の仏教文学、思想史。

主な論文に「仏教史叙述のなかの宗論―応和の宗論に関連するテキストをめぐる」（『日本宗教文化史研究』、2008年）、『真福寺と尾張地域の寺院―大須文庫所蔵無住関連聖教の伝来について』（中世禅籍叢刊別巻『中世禅への新視角』臨川書店、2019年）、『院政期の仏教史叙述における仏典利用』（『仏教学部論集』、2023年）



『東南院御前聖教目録』
(『真福寺古目録集二』真福寺善本叢刊第二期1、
臨川書店、2005年)

図書館に寄せて

歴史学部歴史文化学科教授 堀 大介

学芸員時代の図書館利用

私が本学に着任したのは二〇二一年四月のこと、それ以前は福井県の越前町織田文化歴史館という博物館で、考古学を専門とする学芸員を二〇年やっていた。越前町は平成の合併で四つの町村が一緒になって誕生した町で、人口二万人ほどの小規模な自治体であった。小さな町の学芸員というのは、多くの業務をひとりでこなさなければならぬ。たとえば遺跡の発掘調査をおこない、住民からの要望に答えながら専門外の文化財の調査を実施し、博物館の入館者数の増加を考えながら日常の業務・雑務をこなし、館のピーアールと観光につながる企画展示、講演会のイベントなどをおこなっていた。これが雑芸員と揶揄されるゆえンである。

小さな町であるため、文化財の調査・研究にかかる予算は、ふんだんとは言いがたく、学芸員にとって、けつしていいとはいえない研究環境にあった。しかし幸い、私のいた博物館は図書館との複合施設であったので、本と触れ合う機会は多く、職場の事務所には図

書館司書がいたので、研究書のことなどで、よく相談にのってもらっていた。図書館は町

レベルなので蔵書数は少ないが、県立図書館と連携して申請すれば、ほとんどの本を取り寄せることができ、県立図書館と提携していた他県の図書館からの取り寄せも可能であった。

ただ難点なのは時間がかかることで、急いでいる場合は書籍をネットで購入したり、マニアックな研究書や論文集、発掘調査の報告書などは関西の大学や関係機関に赴いて手に入れた。学芸員時代は書籍・論文などの収集に時間や費用がかかり、苦勞したのを覚えている。このような研究環境にあったので、いまは本学の研究室から三分ほど歩けば、百万冊超の本に触れることができ、本学の図書館のありがたさを日々感じている。

紫野図書館に初めて訪れたときの印象

紫野図書館に最初に訪れたのは、いつだったかを振り返ると、縁あって非常勤講師とし

て講義を受け持つことになった二〇一四年であった。担当したのは、通信教育課程にかかると博物館学芸員の資格課程の講義で、一月中旬に丸一日おこなわれる集中のスクーリングであった。講義は博物館実習講義で、私は六コマある講義のうち三コマを担当した。講義の内容は自身の経験・体験などを通じて、学芸員の実務などについて話すというものであった。

そのスクーリングは真冬に開講されるので、福井から行く場合、荒天などで簡単に電車が遅れたり、あるいは止まったりすることが予想された。そのため、いつも前日入りして次の日の講義にそなえることにしていた。そのとき立ち寄ったのが紫野図書館であった。はじめて地下の書庫を見たとき書籍の多さに驚



韓国の発掘調査報告書を読んでいる様子
歴史学部資料室

き、特に東アジア関係書籍が充実しているという印象をもった。このことがきっかけで図書館に通い、自身で発掘した古墳の出土遺物について調べることになった。

越前の古墳から出土した謎の焼物

二〇〇九年の春、私は町内の山のなかで、番城谷山5号墳という大規模な古墳を発見し



陶質土器の大甕 番城谷山5号墳出土
写真提供:越前町織田文化歴史館

た。標高一五メートルという高い山の上に造られた県内では珍しい古墳であった。古墳の実態を調べるため、二〇一〇年から発掘調査を五年間実施したが、その過程で古墳の裾部から見たことのない硬質の焼物を発見した。出土した当初はバラバラの状態であったが、発掘のあと欠片を立体パズルのように組み合わせていくと、しだいに全体の形状が明らかになった。完成した焼物は水を貯めたりする甕（かめ）と呼ばれるもので、高さ八〇センチほどの大きさであった。見た目は五世紀に日本の窯で焼かれた須恵器に似ていたが、全体的に赤っぽくて日本のものとは、どこか雰囲気違っていた。特に、肩部にあ

たる部分に小さな突起が二つあって、日本の須恵器には、あまり見たことがなかった作りであった。

ちなみに、雪国での発掘調査というのは、夏から秋にかけて実施することが多く、雪が降る関係で冬になると発掘で出土した遺物を整理するのが通例であった。古墳は出土した土器などから五世紀に築造されことは分かっていたが、私は考古学でも別の時代を専門としており、五世紀のことは不勉強であった。見たことのない形状と質感の甕であったので、どこのものであるかが分からず、それを出した古墳に対する評価について頭を悩ませていた。その時代の焼物を専門とする研究者に聞くと、どうも肩部に小さな突起をもつ硬質の甕は陶質土器というもので、日本ではなく韓国のものであることが分かり始めた。

紫野図書館で類似した遺物を発見する

考古学は体力と粘り強さが求められる学問である。それこそ遺跡の発掘調査に始まり、遺跡で出土した遺物を整理したうえで発掘調査の報告書を刊行し、それらの事実関係をもとに時代性あるいは地域性、列島規模のなかで歴史的に位置づけるという三段階の過程を経て、研究をおこなっていく。私が発掘した古墳についても同様で、調査のあとは必ず報告書を刊行しなければならなかった。報告書



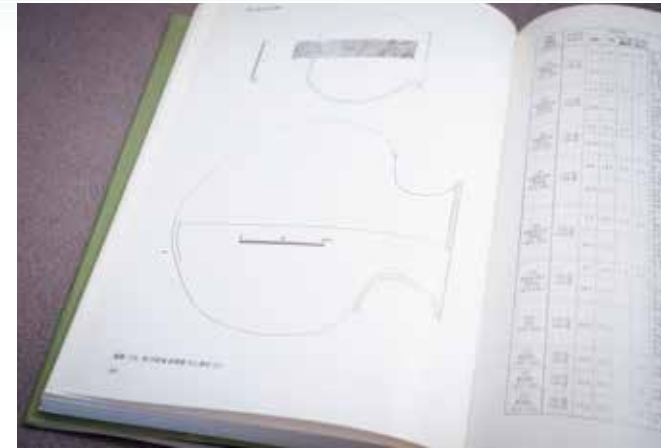
番城谷山5号墳の遠景 福井県越前町
写真提供:越前町織田文化歴史館

出てくる。他に銘文にある「開中（カワチ）」は大阪の河内のことで、畿内が舞台となっているという。

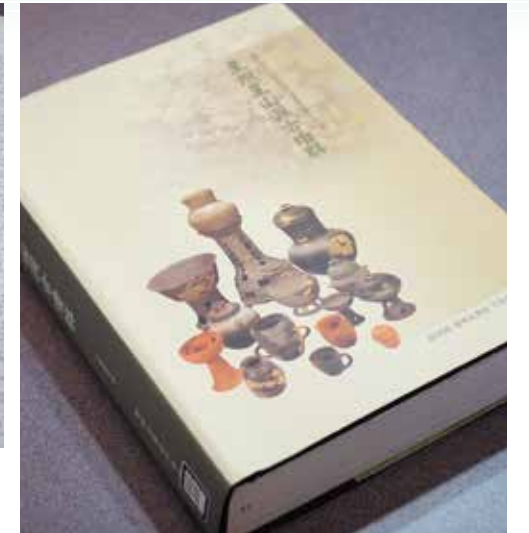
通説的な理解では「癸未年」は五〇三年のことで、「男弟王」をオホド・オオトなどと読み、『古事記』『日本書紀』にある継体の名前である男大迹王（オホドオウ）につながることから、即位前の継体が大和にいたというものである。しかし、この説に関しては以前から疑問をもっており、昨年から銘文の文字の検討をおこなってきた。そのさいに役に立ったのは本学の図書館にそろっている多数の文字に関する辞書類であった。これまで誤字などと解されがちであった鏡の文字について、中国・朝鮮の古代文字に関する辞書を片っ端からひき、鏡の銘字と似た文字はないかを調べた。

すると、鏡の文字は誤字ではなく、異体字あるいはその一種と理解でき、結果として「日十」は「日十」と読んで「ヲケ」という大王名、「男弟王」は「予弟王」と読んで「私の弟王」、「開中」は「歸（帰）中」と読んで「紀伊」すなわち和歌山のことを指すことなどが分かってきた。つまり、継体とは関係ない鏡の銘文であり、むしろ鏡が出土し伝世してきた和歌山県と関係がある可能性が高くなった。

銘文の解釈をめぐるは大正時代以来、多くの研究者のなかで議論となり、関係する論文も八〇近く発表されてきている。一向に論



韓国の発掘調査報告書（星州星山洞古墳群）と陶質土器の図面
歴史学部資料室



古代文字の辞書類 歴史学部資料室

争はおさまる気配はなかったが、またしても本学の図書館に助けられ、一一〇年の長きにわたる謎が解け始めてきている。

書籍は書棚のなかで常に物言わぬ、無言のたずまいを見せているが、ひたすら書籍と向き合っていると、こちらからの問いかけに対して、静かに口を開いてくれるときがある。これからも図書館に赴き、ときおり成立する対話を楽しみたいと思っている。

鏡の文字を様々な辞書で調べる

福井にいたときからの研究で、やり残したテーマに継体天皇があり、いまは、その続きを取り組んでいる。『日本書紀』によると、継

の刊行をひかえ、先ほどの甕の出自、古墳に対する評価が定まらず、ちょうど冬のスクーリングの頃、何か取っ掛かりはないものかと焦っていた。そのとき紫野図書館の地下書庫や歴史学部資料室には東アジア関係の書籍が充実していたことを思い出し、図書館にこもって韓国の発掘調査報告書などを片っ端から調べてみようと思った。

調べ方は非常に原始的である。関係する都合のいいデータベースはないので、発掘報告書を一頁ずつめくり、図面や写真を見ながら同じような形の甕を探しかなかった。根気のいる作業であるが、結局このやり方が一番手取り早かった。同じような甕が出てくるとチェックしてコピーを取り、データベースを作成して図面や写真を照合し、甕の類似する部分について考えを深めていった。

結果として、韓国には似た形の甕が数多くあり、四世紀末から五世紀にかけて朝鮮半島南部で作られた陶質土器という硬質の焼物で、日本海を越えて福井にもたらされたことが明らかになった。これらの解明に至ったのは、東アジア関係の書籍が充実する本学の図書館のおかげといえるだろう。



隅田八幡社人物画像鏡 富岡謙蔵「支那古鏡図説」『古鏡の研究』丸善、1920の第13図より転載

体は第二六代の天皇（当時は倭国王）とあり、越前から迎えられて五〇七年に王位に就いた人物として知られている。地方豪族なのか王族なのか、本当に越前から迎えられたかについては諸説あり、いまだに定説はない。ひとつ有名な説として、継体は即位前にすでに大和に政治拠点をもっており、次の倭国王の有力候補であったという説である。

これは『日本書紀』の記述とは異なる理解であり、和歌山県橋本市の隅田八幡神社が所蔵する国宝の鏡にある銘文が根拠となっている。鏡の銘文は四八つの文字からなり、「癸未年」という年と、「日十」という大王、「男弟王」、「斯麻」などの人物が登場し、「意柴沙加（オシサカ）宮」という大和の地名をもつ宮が



ほり だいすけ
堀 大介 歴史学部歴史文化学科教授

1973年、福井県生まれ。同志社大学大学院文学研究科博士課程後期退学。博士（文化史学）。越前町織田文化歴史館館長補佐を経て現職。第34回濱田青陵賞受賞。主な著書に『地域政権の考古学的研究』（雄山閣、2009年）、『泰澄和尚と古代越知山・白山信仰』（雄山閣、2018年）、『古代敦賀の神々と国家』（雄山閣、2019年）、主な共著書に『神社の古代史』（KADOKAWA）、『古代豪族』（洋泉社）など。

0歳から、みて、きいて、ふれて、楽しむ

絵本の世界

— 図書館所蔵の布絵本とマザリーズで繋ぐ親子の絆 —

教育学部幼児教育学科教授 柏 まり

はじめに

佛教大学に着任して3年。大学附属図書館に足を運ぶたびに、新たな書物との出会いがある。先日、何げなく書庫の横を通り過ぎたとき、ふきのとう文庫の布絵本を発見し、「えーこんな貴重な本が」と声が出るほど驚いた。布絵本は、どうぶつ、くだもの、のりものなど、乳幼児の興味に応じた多彩なモチーフが特徴で、布がもつ柔らかさや手作りのあたたかさがある。また、布絵本は、乳児が口に入れることを考慮し、安全面にも配慮された縫製により、0歳から、みて、きいて、ふれて楽しむことができる。大学附属図書館所蔵の布絵本との出会いは、保育士養成課程の必修科目でもある「乳児保育」を担当する教員として、授業内容を再考するきっかけとなった。50年の歴史と伝統のある教育学部を有する大学附属図書館には、教員養成に有用で魅力的な教育資源が所蔵されていることを改めて感じた。大学附属図書館という豊かな環境を教育資源として活用できる力も大学教員として必要と考える。

現代の子育て家庭と保育者の役割

近年の都市化、核家族化などの影響により、子育て家庭を取り巻く社会は厳しく、家庭の

課題を感じる保育者の声がある。

子育て家庭内の努力だけでは安定して子育てすることが難しい現代、保育施設は子育て家庭が支援を必要とするときに、必要な支援を得る子育て公助の役割がある。保育施設は、乳幼児の健全な成長・発達を支える場であると共に、保護者の不安や悩みに寄り添い、保護者の養育する姿勢や力が発揮されるよう、支援することが求められる。特に、保育者は、保護者の養育力の向上を目指して、子どもが育つ喜びや子育ての楽しさを保護者と共有することを大切にしながら、子育て家庭において安定した親子関係が築かれるよう、支援を行っている。

マザリーズとは何か

マザリーズは、IDS (Infant-Directed speech) といわれ、まだ言葉を獲得していない新生児



内山伊知郎(監修)児玉珠美、上野萌子(編著)
『0.1.2歳児の子育てと保育に活かすマザリーズの理論と実践』(北大路書房、2015年)

から2歳頃までの乳幼児に向けた語りかけのことである。女性だけでなく男性も共通して、乳幼児への語りかけには自然とマザリーズが取り入れられている。具体的には、大人が乳幼児に語りかける際、自然と発せられる言葉で、声の調子がやや高く、ゆっくりとしたやわらかな話し方のことである。マザリーズは、日本語に限らず、フランス語、イタリア語、ドイツ語、英語といった言語圏でも出現し、乳幼児への語りかけに共通の特徴を持っていることが示唆されている。マザリーズの特徴としては、①普段より声の調子が高くなる、②ゆっくりとした語りの速度、③声の抑揚を誇張する、④語尾があがる、などがあげられる。こうした特徴をもつマザリーズを取り入れた語りかけは、身近な大人との愛着形成に繋がる情緒的な結びつきをつくり、親子関係の基盤となる。

マザリーズに関する先行研究では、乳幼児の発達に与えるマザリーズの効果について明らかにしている。具体的には、①乳幼児の注意をひきつける効果、②乳幼児の感情を変化させる効果、③社会的相互作用を促進する効果、④言語の獲得を促進する効果、などがあげられる。乳幼児は、マザリーズを用いた話し方を好む傾向があり、声の特徴を模倣しやすい関係性の基盤となるものである。マザリーズの高い声や誇張された抑揚は、乳幼児の注意をひきつけて維持する効果があること



子どもが大好き『大型絵本』、保育現場で行う読み聞かせは迫力満点です。

が明らかとなっている。また、マザリーズを用いた語りは、ぐずった乳幼児の心を安定させ、まだ言葉を理解できない乳幼児であっていても音声から感情を読み取ることが示唆されている。子育てに不安や難しさを感じ、子どもへの関わり方に課題をもつ保護者にとって、マザリーズを用いた語りかけは、親子のコミュニケーションを支えるとともに子育ての不安感軽減の一助となると考える。



マザリーズを生起させる乳幼児を対象とした絵本



ふきのとう文庫の布絵本「だれのうち？」
さまざまな家のモチーフから、いぬ、とり、コアラなど、
家に住んでいる動物が隠れています。親子で会話をし
ながら楽しむことができます。

養成課程に在籍する学生にもみられる。具体的には、乳児の泣きに対する反応が著しくネガティブだったり、乳児への声かけが単調で抑揚がなかったり、乳児の姿から思いや感情を読み取ることが難しく苦手と感じる学生の姿がある。ベビーモデルを用いた抱っこやおむつ交換の演習においても、自然発生的に声を発し、応答的にかかわる学生の姿は少なく、ベビーモデルに声かけをするように促しても、恥ずかしがり言葉がでてこない様子も見受けられる。

子育ての経験がなく、乳児の反応を予測することが難しい学生が乳児への声かけを学ぶ際には、布絵本を媒介としてマザリーズを取り入れた演習が有効と考える。布絵本の色彩やデザインの美しさ、布の柔らかさや手作りのあたたかさは、学生の心を動かす教材になる。文字のない布絵本から想起される言

おわりに

マザリーズは、一方的な語りかけの技術ではなく乳児との応答的なコミュニケーションの方法である。マザリーズを実践するためには、対象となる乳児の表情やしぐさ、視線や手足の動きを敏感に感じ取り、感情や欲求にタイミングよく応答することが不可欠である。マザリーズを用いた親子のコミュニケーションを通して、身近な大人が自分の発したアクションや気持ちの変化に気づき、柔らかい語りかけと共に欲求が満たされることで、愛着関係が形成される。附属図書館には、マザリーズを生起させる乳児を対象とした絵本が豊かにある。オノマトペを用いた「じゃあじゃあ、びりびり」「もこもここ」や「まるまるのほん」等、絵本を媒介として安定した親子関係の絆が結ばれることの意義を再確認し、新たな発見を求めて今日も図書館を訪れてみよう。



かしわ 柏 まり 教育学部幼児教育学科教授

兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了、修士（学校教育学）。岡山県立大学大学院保健福祉学研究科博士課程修了、博士（保健福祉学）。幼稚園および保育所での勤務経験を経て保育者養成の道へ。就実大学教育学部准教授、岡山県立大学保健福祉学部教授を経て現職。専門分野は、幼児教育・保育。主な著書『新・保育と人間関係―理論と実践をつなぐために』（嵯峨野書院2023年）、『シリーズ保育実践につなぐ 保育内容総論』（みらい2021年）。主な論文「育児ソーシャル・サポートにおける保育施設の可能性―幼稚園児を持つ親の意識を手がかりとして―日本保育学会『保育学研究』第56巻、第2号 pp.99-110（日本保育学会2018年）、「幼児期における宗教的情操感育成のための海外研究」日本仏教教育学会編『日本仏教教育学研究』第25号 pp.25-30（日本仏教教育学会2017年）。

布絵本とマザリーズで繋ぐ親子の絆

布絵本は、「りんご」「くるま」「ちようちよ」など、乳児の好きなモチーフが、一枚の布にデザインされており、文字が書かれていないものが多い。そのため、「りんごが、ころころ」「くるまが、ぶーぶー」「ちようちようが、ひらひら」など、親子で自由にストーリーを展開することができる。また、「りんごを、ちようだい、はいどうぞ」「りんごを、ぱくり」など、遊びの要素を取り入れることで応答的な親子のコミュニケーションが可能となる。0歳から、みて、きいて、ふれて楽しむことができる布絵本の読み聞かせにおいて、マザリーズを取り入れることで、保護者の声に反応を示したり、モチーフに興味をもち、自ら手を伸ばそうとしたり、保護者の関心を引こうと声を発したり、手をぱちぱちと合わせたり体をゆすったりするようになる。特に、文字のない布絵本は、年齢に合わせて、一言文から二語文へと言葉を足したり、「ころ、ころ、ころ」「ひら、ひら、ひら」といった擬態語や「じゃー、じゃー、じゃー」「ぱか、ぱか、ぱか」の擬音語、「わんわん」「ちゅんちゅん」などの動物の鳴き声を発したりする際は、特にマザリーズの特徴を意識して読み聞かせを行うことで、語彙の理解や言葉の獲得を促進させる効果が認められている。乳幼児期



ふきのとう文庫の布絵本「さかな」「むし」他

は、身近な大人との愛着を抛り所として、大人の姿を模倣することを通して、人間社会で生きるために必要となる礎を獲得していく時期である。マザリーズがもつ特徴は、乳児の心の安定を図るとともに大人への関心をひきつけ、模倣しやすい親子関係づくりに有用と考える。

布絵本とマザリーズで育てる 保育者の専門性

マザリーズは、まだ言葉の獲得が十分ではない乳児とのコミュニケーションの基本として、乳児への語りかけにおいて重要な専門技術といえる。本来マザリーズは、日々乳児と関わり、授乳、おむつ交換やあやすなどの養育行動を通して、乳児とのふさわしいかわり方として自然に習得されると考えられてきた。また、幼いころから大人が乳幼

児に接する際に発するマザリーズを聞き、マザリーズを用いたコミュニケーションに触れる経験が、マザリーズの習得に繋がると考えられる。

現代の子育て家庭において、乳児とのふさわしいかわり方がわからないと、子育てに不安を感じている親の姿がある。地域コミュニティが希薄となり、少子化や核家族家庭の一般化などの影響により、乳児と触れ合った経験がほとんどないまま、親になったことに育児不安の一因がある。こうした、乳児への関わりに不安を感じる姿は、保育者



ふきのとう文庫の布絵本「まる」
信号や車のタイヤなど「まる」をモチーフとした絵本。
指先を使って動かすことができます。

佛教大学附属図書館で学ぶ近代仏教

社会学部現代社会学科教授 大谷 栄一

「近代仏教」とは何か？

本学図書館の蔵書数は、現在、一三万六八冊を数える（二〇二四年五月一日時点）。「近代仏教」というキーワードで本学図書館ポータルサイト BBD を検索すると、五八八冊の蔵書があることがわかる。「仏教」で検索すると、一万九七二五冊なので、「仏教」関係の書籍の中の割合は約三％と少ない（同年八月一二日時点）。本学の蔵書全体からすれば、さらにわずかな割合である。

そもそも、「近代仏教 (Modern Buddhism)」とは何か。

それは、一九世紀以降、日本を含む、アジア、欧米の世界中に現われた仏教の近代的形態を意味する。日本の近代仏教史（近代日本仏教史）は、一八六八年の明治維新を起点とし、一九四五年のアジア・太平洋戦争の敗戦までと区切る考え方もあれば、現在まで続くという考え方もある。この小文では、後者の立場を採る。いずれの説にしても、二五〇〇年以上の仏教の歴史を考えると、圧倒的に短い歴史である。

その研究は戦後に本格的にスタートするが、専門家はほとんどおらず、その成果は微々たるものだった。しかし、二一世紀に入り、日本国内で近代仏教の研究が急速に盛り上がりを見せた。史学会の機関誌『史学雑誌』一二四編五号に掲載された「二〇一四年の歴史学界」の「日本（近現代）」欄では「今世紀に入って盛んな近

代仏教研究」と評されている。今では毎年、何冊もの近代仏教研究の成果が着実に刊行され続けている。

私は、大学院入学以来、三十年以上にわたって、この近代仏教研究に従事してきたので、近代仏教という新しい学問領域の興隆を感無量に感じる。では、近代仏教（近代日本仏教史）について知りたいと思ったら、どの文献を手にとったらよいだろうか。以下、本学図書館に所蔵されている近代仏教関係の書籍のうち、入門書をはじめ、ジェンダー、グローバル化、戦争・平和という現代社会に密接に関わるテーマについての文献を紹介しよう。

近代仏教の入門書

まず、この学問領域の入門書としてお薦めしたいのは、以下の三冊である。

- ① 大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎編『増補改訂 近代仏教スタディーズ』（法蔵館、二〇二三年、初版二〇一六年）
 - ② 碧海寿広『入門 近代仏教思想』（ちくま新書、二〇一六年）
 - ③ 吉田久一『近現代仏教の歴史』（ちくま学芸文庫、二〇一七年、原著一九九八年）
- 三七名の近代仏教研究者（他専攻の研究者を含む）の総力を結集して作り上げた近代仏教の入門書が、①である。近代仏教の定義と歴史から始まり、「グローバル化」「メディア」「社会問

- ④ 川橋範子『妻帯仏教の民族誌』（人文書院、二〇一二年）
- ⑤ 鈴木正崇『女人禁制の人類学』（法蔵館、二〇二一年）

- ⑥ 那須英勝・本多彩・碧海寿広編『現代日本の仏教と女性』（法蔵館、二〇一九年）

現代の日本仏教界に見られるジェンダー不平等の修正をめざす仏教団の女性たちの改革運動を描いたフェミニスト・エスノグラフィが④である。著者は研究者と当事者（僧侶の妻）の間の立場から本書を著し、現在でも出家主義を標榜する伝統教団が結婚生活の現実を教義上の戒律遵守で覆い隠す姿勢を「虚偽の出家主義」と名づけ、批判する。

⑤は女人禁制の問題を、相撲、穢れ、山岳信仰という多角的な観点から論じた一冊。江戸時代までは多くの山々が信仰の対象で女性の立ち入りを禁じる女人結界が設けられていた。しかし、明治五年三月に明治政府がその解禁を発令したものの、現在でも一部の霊山では女人禁制が残っている。女人禁制は現代的な課題であることが本書からわかる。

⑥は「ジェンダー」と「国際性」をキーワードに、日本仏教界の抱える女性差別的な問題を摘出した成果。総論「越境する「仏教とジェンダー」研究」（川橋範子）に始まり、「研究篇」と「実践篇」に分けられた諸論考が収録されている。後者にはイギリスから来日し、僧侶として活動するイギリス人女性の体験談が収められ

近代仏教とジェンダー

なぜ、日本の僧侶は結婚しているのか、不思議に思ったことはないだろうか。仏教では戒律で飲酒や肉食、結婚が禁止されており、他国・他地域の僧侶・僧尼たちはそれを守っている。日本で僧侶の肉食や妻帯が公式に認められたのは、じつは明治時代である。明治五年（一八七二）四月に明治新政府から発令された肉食妻帯蓄髪勝手令によって認可された。ただし、浄土真宗では親鸞が結婚しており、妻帯が認められていたため、近代以降の僧侶の妻帯を「日本仏教全体の真宗化」と呼ぶ研究者もいる。

その結果、（真宗以外でも）寺院で生活する住職の配偶者等の家族を意味する寺族が形成され、日本仏教界でジェンダーをめぐる問題が浮上する。

この問題については、以下の三冊が詳しい。



①『増補改訂 近代仏教スタディーズ』



②『入門 近代仏教思想』



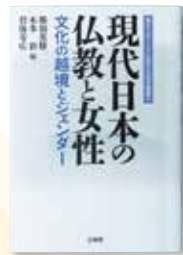
③『近現代仏教の歴史』



④『妻帯仏教の民族誌』



⑤『女人禁制の人類学』



⑥『現代日本の仏教と女性』

ている。本書末尾には、三人の日本人女性僧侶へのインタビューを分析したカナダ人男性研究者の論考も収録されている。

グローバル化する近代仏教

現在、世界中で日本の禅がZENとして完全に定着している。たとえば、アップル (Apple) 社の創業者の一人、スティーブ・ジョブズは禅の熱心な信奉者だったことは有名である。近代仏教の大きな特徴の一つが、グローバルな展開と交流にある。日本の仏教徒は明治初期からヨーロッパやアジアに渡航し、欧米仏教徒が来日した。前近代までと異なり、日本の仏教徒や仏教教団が国境を越え、海外で精力的に活動を行ったのである。

世界中の近代仏教研究で、このテーマは調査・研究が進んでいるが、ここでは以下の三冊を紹介したい。

- ⑦ 末本文美士・林淳・吉永進一・大谷栄一編『ブッダの変貌』(法蔵館、二〇一四年)
- ⑧ 吉永進一『神智学と仏教』(法蔵館、二〇二二年)
- ⑨ 嵩満也・吉永進一・碧海寿広編『日本仏教と西洋世界』(法蔵館、二〇二〇年)

近代仏教研究の主要な論点に焦点を当て編まれた論文集が⑦である。「近代仏教の語り方」「近代仏教のトランスナショナル・ヒストリー」「アジアにおける近代仏教の展開」「伝統と近代」の四部から構成され、計一五本の論考が掲載されている。本書全体を通じて、近代仏教がトランスナショナルに形成され、ハイブリッドなものであることが明らかにされている。近代の日

本仏教もまた、欧米やアジアとの複雑な関係の下に構築されたことがわかる。

⑧は本学図書館に未所蔵だが、あえて紹介したい。というのも、近代仏教のグローバル化を考えるうえでは必読の書籍だからである。近代世界で仏教が世界に普及する媒介役を担ったのが、神智学という近代オカルティズム思想と、一八五七年にアメリカのニューヨークで結成された神智学協会である。近代日本仏教史における神智学の重要な役割を初めて明らかにしたのが、本書である。

日本仏教の近代化を語るうえで主要なモチーフのひとつである西洋化の問題を取り上げ、近代日本仏教史における西洋化の実態化を解き明かしたのが、⑨である。「伝統と国際化」「留学と翻訳」「科学との対話」「普遍性と固有性」の四部構成からなり、計一二名の仏教者や知識人等が取り上げられている。

近代仏教と戦争・平和

近代日本仏教のグローバル化は、帝国日本の帝国主義政策・植民地主義政策、そして戦争と結びついていたことは周知の事実である。このテーマに関する研究も進んでいる。以下の四冊が参考になる。

- ⑩ 小川原正道『近代日本の戦争と宗教』(講談社選書メチエ、二〇一〇年)
- ⑪ 同『日本の戦争と宗教1899-1945』(講談社選書メチエ、二〇一四年)
- ⑫ 市川白弦『仏教者の戦争責任』(春秋社、一九七〇年)

をどのように構築していくのか。とりわけ、現在、それが問われている。

おわりに

以上、本学図書館に所蔵されている近代仏教関係の書籍のうち、入門書と限られたテーマの文献を紹介した。近代仏教研究が扱うテーマは幅広く、ほかにも「大学」「メディア」「儀礼」「女子教育」「鉄道」など、現在の仏教にも直接的に関連するテーマが多い。この小文が、近代仏教の魅力と奥深さを知るためのきっかけになれば、と思う。

戦後の日本仏教界は、戦前の戦争協力への懺悔から再出発する。仏教各宗派がその戦争責任を正式に表明するのは一九八〇年代後半以降だが、それに先立ち、日本仏教界の戦争責任を批判したのが、⑫である(二〇二四年八月に法蔵館文庫から復刊)。「戦争の罪責はもともと平和の罪責である。(中略)それは平和のなかでの平和に対する罪責である」。著者はそう問いかける。平和な時代に平和と自由に対して無知であったこと、戦前の教育を狂信したことに戦争の罪責の原因を求める。その問いかけは重い。

⑬は、戦後日本の宗教界(仏教、キリスト教、新宗教)の平和運動の軌跡を分析した論文集。平和の問題を日本だけではなく、アジアとの関係にも着目したトランスナショナル・ヒストリーの視座からも考察している。過去の戦争とどのように向き合い、未来の平和



おだに えいいち 大谷 栄一 社会学部現代社会学科教授
1968年、東京生まれ。東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程修了。博士(社会学)。(公財)国際宗教研究所研究員、南山宗教文化研究所研究員を経て、現職。
主な著書に、『近代日本の日蓮主義運動』(法蔵館、2001年、日本宗教学会賞・中村元賞)、『近代仏教という視座』(ペリかん社、2012年)、『日蓮主義とはなんだったのか』(講談社、2019年、望月学術賞)、『ともに生きる仏教——お寺の社会活動最前線』(編著、ちくま新書、2019年)他多数



⑬『戦後日本の宗教者平和運動』



⑫『仏教者の戦争責任』



⑩『日本の戦争と宗教 1899-1945』



⑪『近代日本の戦争と宗教』



⑨『日本仏教と西洋世界』



⑧『神智学と仏教』



⑦『ブッダの変貌』

本のお医者さんがいる図書館

図書館修理担当 安木志保



傷んだ和古書を解体し一丁ずつ裏打ちを施す

現在、本という概念はデジタル化の方向へと変わりつつあります。図書館もまたその流れのなかにあると同時に、紙の本も大量に所蔵しています。コンテンツはもちろん重要ですが、モノとしての本においては装丁、素材、印刷、造本等々の情報もまた一冊の本を構成する大事な要素のひとつです。古典籍などでは装訂や使用されている紙によって制作年代などが推定されたりもします。

そしてモノとしての本は、経年や使用などで当然、傷んでいきます。資料の利用を目的とする図書館ではなおさら本の劣化、損傷については課題となっているところです。海外では修復室が設けられている図書館が多く、傷んだ本は館内で修理されます。一方、日本では専門の設備や人員を擁しているところはごくわずか。カウンタースタッフが業務の合間に簡単な修理を行ったり、外部の専門業者に依頼する場合がほとんどではないでしょうか。

佛教大学附属図書館では修理を専門に担当する自称「本のお医者さん」が修復室ならぬ事務室の片隅で傷んだ本を治しています。ほぼ毎日のように運ばれてくる急患（本）に対応し、文庫本から革装本、和古書などさまざまな本を利用に耐えうるように修理します。数時間で治る軽傷から、全治何か月もかかる重傷まで、和洋新旧を問わず、年間約二百冊ほどを手掛けています。

ただやみくもに壊れたら治すというのが修理の考え方ではありません。その本に修理が必要かどうかは図書館それぞれの資料保存、修理方針などによっても異なりますし、利用頻度や目的などによっても違ってきます。担当専門員から修理の依頼があれば、修理方法や素

材、仕様等について提案し、方針を決定します。修理をせずに中性紙の保存箱に入れるだけという選択もあります。解体の途中でわかることもあり、現物を見ながら担当者とその場で都度相談、確認をしながら作業を進められるのは館内修理の大きなメリットです。

和古書の利用が多い当館では、貴重書や準貴重書以外での貸出しや閲覧希望があった場合、本紙の和紙がくっついて開かない、文字部分が虫喰いでボロボロになっている等々の症状があれば、安全に利用していただけのような事前に修理してから提供しています。他に、デジタルデータ化する資料を撮影可能な状態にする、展示に使う箇所のを剥がれを補修するなど、急ぎの場合にも対応できるのが館内修理の強みでもあります。

治療方針としては、基本的に水などではがして後々再び修理できるように可逆性（元の状態に戻せること）のある素材や材料を使い、できるかぎり本にとって安全で無理のない修理を心がけています。

また、修理の記録（カルテ）を残しておくことも大切です。当館では資料に関連付けてクラウド型図書館システム「Alma」に非公開ながら状態や修理方法、使用材料などの記録を修理前後の画像と共にデータで保存しています。

多くの蔵書が劣化し、壊れゆく状況のなかで、図書館は紙資料としての機能を損なわず、利用できる状態を維持することが重要です。紙の本の特性、デジタルの利便性と汎用性、お互いが共存し、補い合い、可能性をひろげていけるよう、図書館の「本のお医者さん」として日々手を動かし続けていきたいと思っています。



常時、5～10冊ほど同時進行で修理している



一頭の山羊革から補修の革を切り出す

洋装本の修理

革装本の修理 —



表紙の革を医療用メスで起こす



補修革の段差をなくすため革漉き包丁で漉く



修理後



修理前

洋装本は圧倒的に背と表紙の接統部分、つまり開閉で負担のかかる箇所が破断しているケースが多い。革装本なら新しい革を、クロス装本なら新しいクロスを表紙の下に貼り込んで補強し、元の背を貼り戻す。和紙で補強する場合もある。中身の見返しや本紙の破れなども和紙とでんぷん糊で修理する。強い接着が必要ない箇所には獣類の骨や皮を煮込んだ膠^{にかわ}という接着剤を使用。膠はお湯など熱で剥がれる特性がある。

クロス装本の修理 —



いちょうゴテでの溝付け



クロスで補修した表紙の背に膠を塗る

和古書の修理

裏打ち作業 —



裏打ち紙に生麩糊を均一に塗る



本紙を裏から丁寧に刷毛でのはずす



仮張の板に貼り付けて乾燥させる



本紙の上に裏打ち紙を刷毛で撫でながらのせていく

繕いによる修理 —



修理後



修理前

虫喰いで穴が開き、ボロボロになった和古書は本を解体し、一丁ずつ裏から全体に薄い和紙を貼って補強する「裏打ち」、虫損の形に和紙を裂いて裏から欠損部分を補修する「繕い」という二つの方法で修理している。糊は自家製の生麩糊^{しょうぶのり}を用い、和紙は繊維が長く薄くても丈夫な楮紙を使用。本紙の厚みや色に合わせて最適なものを選ぶ。本紙の修理が終わったら元の和装本の状態に綴じなおす。

糊 炊き――

和古書の修理に使用する生麩糊は自家製で炊いている。生麩糊とは小麦粉からグルテンを取り除いた小麦でんぷん糊のことで、日本では古来より接着剤として使われてきた。現在も広く修復に使用されている。粉を一晩水に浸したものを炊いて糊にする。炊く間は絶えず混ぜ続け、粘りと透明感が出たら完成。保存料不使用のため、日持ちは冷蔵庫で五日ほど。



糸 の古色染め――

和古書を綴じる絹糸は、違和感なく馴染むよう草木染で古色に染める。矢車附子^{やしゃぶし}という昔はお歯黒染めにも使われた木の実を水から煮出し、生成りの絹糸を入れると徐々に古色に染まっていく。媒染を変えると微妙なニュアンスの変化ができる。数色染めておき、本に合わせて使う。洋装本の綿糸や麻糸もこの方法で染める。



佛敎大学附属図書館の事業活動報告（2023～2024年度前半期）

2023年度

4月	新型コロナウイルス感染防止策を講じたうえで図書館・図書室を開館 対面での利用説明会・ガイダンスを再開 郵送による貸し出しサービス・文献複写依頼物の拡大（2020年4月22日より継続中） ※通信教育課程学生対象サービスを通学課程学生にも実施 「電子ブック展 そっだー電子ブック使おっ！」（佛敎大学教育後援会支援金に関連した図書を表示。 「性・セクシュアリティを通して考える人権」 人権教育センター（紫野キャンパス図書館1階展示コーナー・二条図書室） ブックチェックリプレイス（紫野キャンパス図書館） 「私が紹介したい認知症に関する図書『ブックレビュー』」 社会福祉学部（紫野キャンパス図書館1階展示コーナー） 図書館報『常照』第70号を発行
5月～6月	
8月	
9月～10月	
10月	図書館報『常照』第70号を発行
11月	佛敎大学Open Research Weeks 2023「洛中洛外図屏風」複製品、「都名所百景」パネル展示（紫野キャンパス1号館1階）
1月～2月	「民族差別に関する図書・資料／性と身体に関する図書／アサーティブ・コミュニケーションに関する図書」 人権教育センター（紫野キャンパス図書館1階展示コーナー・二条図書室）
3月	浄土宗文献室閉室

中央展示テーマ（2023年4月～2024年3月）

4月～5月	学びのはじまり（前期・後期）
6月～7月	みよこの夏景色（前期・後期）
8月	踊る（前期・後期）
9月	観月
10月～11月	頼光と四天王（前期・後期）
12月～1月	名所絵の世界～江戸・東京編～
2月～3月	名所絵の世界～名所図会編～



2023年12月～2024年1月
「名所絵の世界～江戸・東京編～」



2024年2月～3月
「名所絵の世界～名所図会編～」



語学学習・就職活動・学習方法・
教員採用試験過去問シリーズ
教育後援会支援金 2024年4月

佛教大学附属図書館の沿革と「成徳常照館」の由来

佛教大学附属図書館は、佛教大学の前身佛教専門学校があった京都市左京区鹿ヶ谷の地から、現在の京都市北区紫野に移転した1934（昭和9）年11月23日に木造2階建の閲覧室と、鉄筋コンクリート3階建の書庫を竣工落成しました。この図書館建設にあたっては、佛教専門学校初代校長である土川善澈師（浄土宗大本山知恩寺68世住職）に深く帰依された篤志家上村常治郎氏のご遺族から多額の寄付をいただき、完成することができました。その後、1963（昭和38）年9月に開学50周年を記念して閲覧室、書庫などが増築され、1972（昭和47）年4月には、開学60周年記念事業として地上5階地下1階建てで、研究室を配置した複合図書館棟が完成しました。現在の図書館は、開学80周年の記念事業として、同窓会、鷹陵同窓会などの卒業生、在学生ならび保護者、浄土宗寺院をはじめとした、本学有縁の方々からの多大な寄付によって、1995（平成7）年1月に着工し



1997（平成9）年4月に竣工したものです。地上5階地下2階建てで100万冊を収蔵することができま

す。専門学校第7代校長江藤激英師（浄土宗大本山善導寺61世住職）によって撰述されたもので、現在は図書館1階に掲げられています。また、同じく1階に設置されている浄土宗総本山知恩院にある八角形の経蔵「転輪蔵」（略して輪蔵）の縮小複製は、1998（平成10）年5月、図書館開館1周年を記念して、佛教大学同窓会、鷹陵同窓会、通信教育部学友会、教育振興会から寄付されました。輪蔵は、1回転させることによって、一切経を読誦したことと同じ功德を得られるといわれています。

後記

佛教大学附属図書館報『常照』第71号をお届けします。本学では佛教専門学校附属図書館からも含め、113万冊ものの図書を所蔵しています。資料のデジタル化が進みゆく中、時代時代に残された紙資料「モノ」を今、未来の活用へと繋ぐ想いで修理しています。図書館でかけがえない書物に、言葉に、多様な知との出会いがありますように。

佛教大学附属図書館報『常照』 第71号

発行日 令和6年10月23日
 発行者 佛教大学附属図書館長 藤井透
 発行所 京都市北区紫野北花ノ坊町96
 佛教大学附属図書館
 制作 株式会社栄美通信

4月
 9月～10月
 9月～12月
 10月
 中央展示テーマ（2024年4月～10月）
 4月～5月 桜まつり（前期・後期）
 6月～7月 祇園祭（前期・後期）
 8月～9月 納涼 水のある風景（前期・後期）
 10月～12月 絵伝（前期・後期）
 語学学習・就職活動・学習方法等の電子書籍／教員採用試験過去問シリーズ（佛教大学教育後援会支援金）に関連した図書を展示
 「わたしが紹介したい認知症の人の本」ブックレビュー／「社会福祉学部（紫野キャンパス）図書館1階展示コーナー」
 「2023年度～2024年度の人権セミナー・研修会関連図書・資料の展示」
 人権教育センター（紫野キャンパス）図書館1階展示コーナー・二条図書室
 図書館報『常照』第71号を発行



2024年4月～5月
「桜まつり」



2024年8月～9月
「納涼」



2024年6月～7月
「祇園祭」



2024年10月～12月
「絵伝」



中央展示（2024年6月～7月）
「祇園祭」